

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400152		
法人名	有限会社 健創舎		
事業所名	グループホーム アガベ		
所在地	岡山県玉野市八浜町八浜1440-4		
自己評価作成日	平成 24年 8 月 26 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaisokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigvosvoCd=3390400152-008PrefCd=33&VersionCd=02

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24年 9 月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人、家族、関係者等に柔軟な対応を行っており、本人のことで以外の福祉に関わることの相談も受け付けており、その他にも業務以外のことも出来る範囲での相談も受け付けています。
 利用されている方に対しては、コミュニケーションを重視しており、食事作りや掃除も出来るだけ利用者で行うようにしています。また、希望や意見を今のままでとどめず、コミュニケーションを通じて新しい希望や意見を見つけ出しただけのように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれた自然を感じる環境に加えて主要道路に面しており、家族が訪問しやすい立地である。代表者は玉野市に根付いたサービスを行うことにより、地域社会に貢献していきたいという思いから、平成16年訪問介護ステーションを創設した。その後も利用者からの要望に応じていくため、デイサービス、ショートステイを開設、平成23年にグループホームアガベ開設の運びとなった。理念の中の「無償の愛」という言葉に最初は違和感を感じたが、事業所の成り立ちや代表者、管理者の地域社会や利用者への思いを聞くことで納得することができた。
 印象に残っているのは、職員間のコミュニケーションが出来ており、仲が良いということである。利用者への支援も“あうんの呼吸”で自然に連携プレーができており、圧迫感や忙しさを感じさせず、とても落ち着いた雰囲気がある。また、管理者と話しをする中で、介護に対するぶれない思いを感じ、さりげない指導や見守りをしながら、職員の手を動かそうとしている姿を見ることができた。
 協力医療機関、訪問看護との連携ができており、家族も安心して預けることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様に信頼、安心していただけるようにと方針を掲げ共有している。地域の方も参加していただける行事も企画している。	理念は事務所、休憩室に掲示し、職員への意識づけを図っている。代表者の地域に根差した福祉、地域の人から求められている福祉をしたいという地域に対する愛着を強く感じた。人と人との繋がりを大切にしており、事業所全体に温かい雰囲気が感じられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物等はできるだけ地域できるように努めている。近隣の方からの挨拶も増えてきているように感じる。	鳥人幸吉まちづくりフェアなど地域の行事に参加したり、天気の良い日には近隣を散歩することも多い。玄関前を地域住民の通り道として開放しており、植えてある花を見て声をかけてくれる方もおられる。また、隣のコンビニに利用者と一緒におやつを買いに行くこともたびたびあり、お店の方との会話も楽しみとなっている。	町内会に入会し、集まりに参加したり、地域の小、中学校との交流を図り、地域の住民や子供達へ福祉を伝える役割を担って頂けることを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から認知症への質問を受けたことがあった。しかし、地域の人に対しては活かされてはいない。認知症サポーターの講座を行いたいと思っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、意見やアイデアをいただき、取り組んでいる。	2ヶ月に1回、開催している。参加者は家族代表、愛育委員、民生委員、保健師、自治会代表、地域包括支援センター、コンサルタントなど10名位である。生活保護受給者の入居もあり、介護相談員が出席することもある。事業報告に続き、毎回テーマを決めて意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターの方との交流はあり、意見や情報をいただくことがある。	分からない事があれば市役所や地域包括支援センターに随時質問している。窓口利用者と一緒に行くこともあり、顔なじみの関係が出来つつある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行っている。玄関の施錠はしているが、利用者が外出したいという時は職員と利用者で話し合い外出している。	事業所前が交通量の多い道路ということもあり、玄関は施錠している。身体拘束についての内部研修を行い、支援の在り方について話している。入居契約時に緊急やむを得ない場合のみ身体拘束を行うことについて家族に説明を行っている。	身体拘束に関する職員カンファレンスの記録や家族に対しての説明同意書、その後のモニタリング等の書類を整備し、明確に支援の流れが分かるようにしておく必要があると思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員が外部研修を行い、その他の職員は内部研修を受けている。また、ニュース等の虐待の情報を随時職員で情報の共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと市役所の担当職員の方と協議し、成年後見人制度の活用を検討を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際には説明を行い、その都度不安や疑問がないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の面会簿の横に意見箱を設置しており、意見を募っている。また、その他に利用者、利用者の家族に意見や満足度を直接聞くこともあり、反映させている。	面会時や電話にて利用者の状況を説明し、意見や要望を聞いている。また、家族の方が来てくれるようなイベントの企画をし、随時お知らせをしている。家族より行事等の予定表を出してほしいと希望があり、検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用の意見書を設置しており、内容によっては会議の議題として出し、反映させている。	申し送りノートに職員が意見を書き、それに対して他の職員がまた意見を書くという積み重ねをしている。月1回親睦会があり、職員同士が仲がよく、何でも話せる関係作りを心がけている。管理者は出勤したら職員全員に声をかけ、コミュニケーションを図っており、色々な意見をくみ取り、職員が力を発揮できるよう配慮している。	訪問している短い時間の中で、職員同士の仲の良さを感じました。これからもチームプレーで支援をして頂くことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与時に、各職員に自己評価シートを記入してもらっている。また、研修の機会を設け、参加者には交通費等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(社内・外)の機会を設け、参加者には交通費等の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている	市内のグループホーム連絡協議会に参加させて頂くと共に今後そのような機会に積極的に参加していく予定である。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階はもちろん、その後もコミュニケーションを基本にした介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、契約時、入所時に不安や要望を尋ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当のケアマネージャーより情報収集を行い、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションだけでなく、食事や入浴の時も、職員と利用者ともに楽しんで行うことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族により大きく差はあるが、積極的に関わっていただけている家族もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物をする際はできるだけ玉野市内のスーパーに利用者と職員で買い物に行っている。一部の利用者ではあるが今まで行っていた集まりにも参加している方もいる。	近隣の方の入居が多いため、教会や入居前の友達同士の集まりに行く人もおられる。知人やゲートボール仲間の面会もあり、中にはお弁当を持って来て一緒に食べている方もおられる。手紙を書いて一緒にポストに投函しに行くなど、出来る限り関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレクリエーションや複数での外出が出来る機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する際、本人、家族に声をかけているが、今のところ相談はない。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護を行うにはコミュニケーションを行うことが重要であると捉えており、ニーズを訴えやすい環境作りに努めている。	利用者と話をすることを大切に考え、お掃除や調理、シーツ交換など一緒にしながら話をする時間をより多く設けるよう努めている。何をしたら喜んでもらえるかを常に考え、思いを聞くだけでなく、色々な働きかけを行い、その人に合うものを見つけられるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族。担当のケアマネージャーよりアセスメントを行っている。それは入所してからも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態は記録に残している。有する力については随時アセスメントを行い記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人は生活の場面で、家族は電話か面会時に意見やアイデアを伺っている。介護スタッフについては意見を収集し介護計画を作成している。	介護計画作成時には利用者や家族に意見や希望を聞いている。ユニット会議にて利用者一人一人について本人が出来る事や助けがあれば出来る事、望んでいる生活など意見を出し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別記録を記入し、その他に一覧できる記録を作成している。また、意見やアイデアがある場合は申し送りノートに記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の方の状況に合わせ本人以外の福祉の相談にも応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の事業所と協力してボランティアを招いたり、利用者同士の交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されている方のほとんどが、協力医療機関の医師が主治医であり週に一度往診していただいている。本人、家族の要望があればその都度、協力医療機関もしくは主治医に相談している。	利用者、家族の希望によりかかりつけ医を選択することができる。週1回、協力医の往診、週1回以上の訪問看護の訪問により、健康管理を行っている。24時間いつでも連絡、相談することができ、適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回以上、訪問看護師に来ていただいております。24時間訪問看護師と連絡をとり相談できる態勢を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は病院関係者に施設でのアセスメントシートを提供し随時、電話連絡や様子を伺いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に看取りの説明を行っているが、看取りはまだ実施していない。	契約時に看取りの説明を行っている。利用者や家族の希望があれば、医師、看護師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられる取り組みでいきたいと考えている。医師も看取りに対して理解があり、協力を得る事ができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	平成24年4月に職員全員が、AEDの使用方法等の応急手当講習を受講している。また、体調不良時及び緊急時の対応マニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、避難経路も普段から確認しやすいようになっている。	年2回、火災を想定し避難訓練を実施し、避難経路の確認をしている。昨年9月、台風による水害があり、地域の方が事業所に避難するなど、地域と協力し対応することができた。この経験を活かし、近隣の一人暮らしをしている高齢者を把握する等地域での役割を話し合い、実践している。	避難用の階段、滑り台が設置してあるが、避難訓練で実際に使用したことはない。滑り台での避難方法など消防署から注意点を聞く機会を設けてはどうだろうか。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の中には敬語をやめてほしいという利用者もあり、利用者の意見を聞いて対応することに努めている。	教科書通りの声かけだけではなく、本人や家族が望むことを聞き、対応している。グループホームをひとつの家だと考え、よそよそしい態度にならないよう配慮している。同時に一人一人を尊重した声かけ、接遇ができるよう内部研修も実施し、職員に問いかけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を言葉で伝えることが困難な方に対して、選択肢を設けたり、日常生活の中でボディランゲージ等非言語コミュニケーションで把握する事に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等の訴えがあればスタッフは同行している。また、訴えの無い方には声掛けを行い、要望を聞いたり、誘ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に悩んでいる方がいれば本人と一緒に考えている。パーマ、カットの希望があれば訪問理容サービスを招き対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、盛り付け、配膳、下膳、洗物と出来る利用者が分担して出来ることをしている。	食材、献立は業者に発注している。盛り付け、配膳、片付け等も利用者と共にいき、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。利用者の希望で一緒にお寿司やおやつを作ったり、外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の一覧表を作り、分かりやすいようにしている。また、食事時の声掛けや見た目のキレイさで食欲をそそっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じた対応をしている。また、口腔内の状態に応じた歯ブラシや洗口液を歯科医と相談して使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の動きでトイレサインをキャッチできるように努めている。車椅子の方も無理のないような声かけや援助を行いトイレを使用してもらっている。	利用者の何気ない動きや表情を観察し、一人一人のトイレサインを把握するよう努めている。トイレサインをキャッチすることにより、定時のトイレ誘導ではなく、本人のペースでスムーズにトイレに行くことができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	集団で体操や散歩等運動を促している。また、何かあれば主治医に相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい利用者を優先している。タイミングについては性格や体調に考慮しつつ声掛けをさせてもらっている。	利用者の希望に合わせ、毎日でも入浴ができるよう支援している。決して無理強いせず、できるだけ本人が入浴したい日や時間に合わせている。また、着替える服を自分で選んでもらったり、お化粧を手伝うなど、身だしなみを整え、皆さんおしゃれに過ごされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休憩や就寝時間は本人のその日の体調や生活習慣を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルに、薬の情報が記載されており、いつでも服薬している内容の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の要望を聞き、造園や料理、洗濯、掃除と本人が今までの生活歴に起因した作業等を声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訴えがあればもちろん、無くても声掛けを行っている。また、家族で参加できる夏祭りや旅行の企画もしている。	週2～3回、近隣のスーパーに牛乳やおやつなど買い物に出かけたり、市役所の窓口と一緒にいくなど外出機会は多い。今年度は家族に協力をして頂き、鳥取花回廊に日帰り旅行に出かけた。利用者の楽しみが増えるよう、次回は姫路セントラルパークを企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から了承をいただいた方は自分で管理し買い物にも行っている。職員が管理している場合でも使う時は出来るだけ自分で支払いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を架けたいという方がいれば状況に応じて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	はきだし窓や天窓で自然の光が多く入るように設計しています。	パステル調の明るい壁の色、高い天井、大きな窓や天窓から心地よい光が挿し込み、とても明るく開放感がある。洗面台や机に花が活けられ、壁に利用者の塗り絵や切り絵などの作品も飾られている。利用者と一緒に相談しながら、ソファや机、テレビなど模様替えをし、居心地のよい空間作りを行っている。	共用部分の床の掃除など気になる部分がありました。利用者と一緒に掃除をする時間を作るなど対応を期待しています。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、テレビ前の応接セット、窓下の応接セット等設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族に今まで使ってきたものを持ってきてほしいと促している。また、タンス等の大きいもの等は職員が直接自宅まで行き運ぶといったこともしている。	部屋の窓から山の緑や地主さんが手入れしている花壇を見る事ができ、季節を感じる事ができる。個々の部屋には洗面所の備え付けられており、自分で整容ができる。タンスなど自分の愛着のあるものを自宅から持ってきており、落ち着いて過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて居室のドアやトイレに目印をつけている。		